

JIS 青銅合金 鑄造用地金

JIS H 2203
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)

三重県安芸郡安濃町字日暮2222-2
電話 059-268-2206 (代)
FAX 059-268-1949

販売元

ミカゲ金属株式会社

大阪本部
大阪市中央区博労町3-6-7 都ビル2階
電話 06-6244-3115 (代)
FAX 06-6244-3116
東大阪倉庫
東大阪市長堂3-11-20
電話 06-6782-3115 (代)
FAX 06-6782-3143

並銅・下銅
真鍮ドライ粉
アルミ・ステンレス

現金買入れ

新賀金属

八尾市太田新町7丁目24

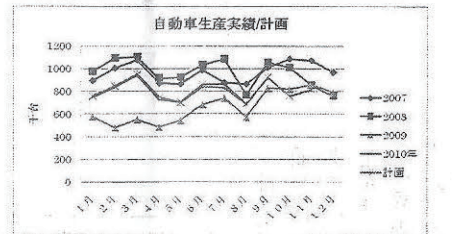
電話 072-949-9750
FAX 072-949-9462

日刊メタルレポート

	6月	7月	8月
生産台数	86万1045台	86万6762台	69万689台
前月比	+21.5%	+0.6%	-20.3%
前年同月	+27.2%	+8.5%	-22.9%

	9月	10月	11月
計画台数	92万5600台	76万1900台	81万8300台
前月比	+34.2%	-17.7%	+7.4%

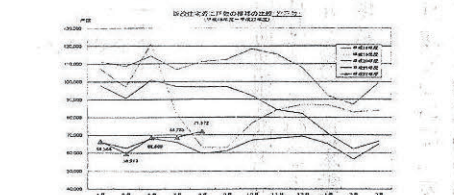
自動車生産台数推移



出典 日本自動車工業会

	6月	7月	8月
日本新設住宅着工数	6万8688戸	6万8735戸	7万1972戸
前月比	+14.7%	+0.1%	+4.6%
前年同月	+8.7%	-3.4%	-9.4%

新設住宅着工数推移



出典 国土交通省 統計

【八月の経済指標】
◆自動車生産台数
日本自動車工業会発表によると、自動車生産台数は前月二〇・三%減の六
九万〇、六八九台。
◆新設住宅着工戸数
国土交通省発表の新設住宅着工戸数は前月比四・六%増の七万二、九七二
戸数であった(前年同期三・四%減)。
(二面へ続く)

株式会社 日刊金属新聞社

発行人 小林恒甫

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表

北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836

購読料 半力年44,100円(前納) 3カ月22,050円



橋本健一郎氏

九月十
国内自動車生産計画前年並み

八月電気銅、輸出入とも減少

【概況】九月前半は、中国PMI指数(製造業購買担当者指数)が三カ月振りに上昇したこと、二〇一〇年のドイツのGDPが統一後、最大になるとの予測、そして八月の中国CPI(消費者物価指数)が予想の範囲内だったことから金融引き締め懸念が後退、LME銅も七、六一六ドルと大幅に

上昇した。
後半は米FRBがFOMCで追加的な金融緩和について言及したことや、それに伴うドル安、そして中国の八月の銅精鉱輸入が一九%増と大幅に増加したことに加え、九月の中国PMI指数が好調だったことによる第四四半期需要への期待から、LME銅も大幅に上昇、十月一日現在、セツルメントは八、〇五三ドル、十月の銅建値は七一万円でのスタートとなった。

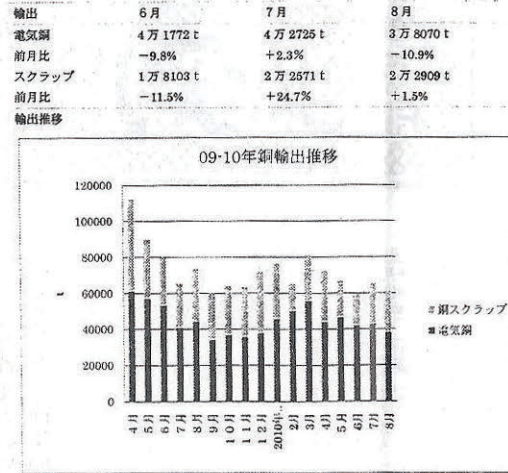
十月後半にかけて原料は逼迫も

海外銅に過熱感も出てきているが

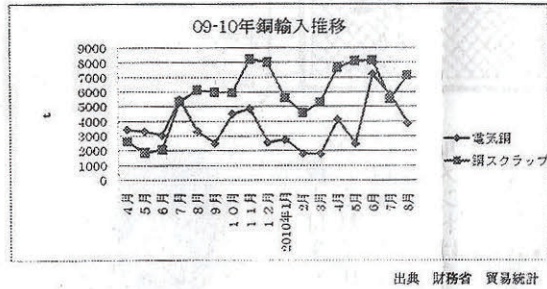
(二面より続く)

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出は電気銅が三万八、〇七〇t (前月比一〇・九%減)、スクラップは二万二、九〇九t (前月比一・五%増)。

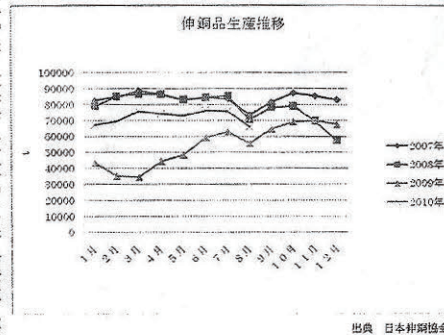


輸入は電気銅が三、八八〇t (前月比三三・四%減)、スクラップが七、一四〇t (前月比二九・七%増)。



【八月の国内指標】

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比一三・三%減の六万五、八二〇t (前年同期一・三%減)。



日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前月比一〇・七%減の五万三、三〇〇tであつた(前年同期一・九%減)。(日本電線工業会の統計は第六面に掲載)

【見通し】

八月は伸銅品生産が前月比でついに二カ月続けて下落。夏季休業による影響はあるものの昨年の同期(一一・三%減)より悪化(一三・三%減)したことから下振れが懸念される。自動車生産は前月比で二〇・三%減の六九万台と前年同期の二三%減からは改善しているが伸び悩み。

銅電線出荷量も前年同期からは改善しているがこちらも伸び悩み。

唯一好調な新設住宅着工数は前月比四・六%増の七万一千戸台と、ついに七万トン台を回復。銅原料に関しては九月後半にかけて銅建値が七一万台に乗せたことや、十月一七日の中国国慶節の下落リスクに対する売り込みから、メーカーは一定の材料を確保したが、国内自動車生産計画は九十一月の三カ月予測が昨年並みと、エコカー減税終了による落ち込みがなかつたことから十月後半にかけて原料が逼迫すると予測。

価格は銅建値ベースの銅・合金スクラップは米追加景気対策・金融緩和策それに伴うドル安、また日本への金融緩和と圧力などを受けてテクニカル買いが入りやすい状況にあるが、米指標悪化でドル安・銅価格上昇と過熱感も出てきており、LMEに関しては下値七、五〇〇ドル、上値八、二〇〇ドル。銅・銅合金スクラップに関しては円高も加味して銅建値で七一万円程度と予測している。